

# ディアコニア



説教

「あなたがどこへ行つても」

— 創世記28章15節 —

齋藤 篤

日本基督教団 深沢教会牧師

私たちは神を信じる生活を営む中にあつても、時には神の存在すら、私たちに感じられなくなってしまうこともある。

そのような不信仰とも思えるようなことが、実は私たちの日常の茶飯事であるかもしれません。世の中の雑事に追われ、納得の行かないような出来事に遭遇すれば、私たちは簡単に神の存在を忘れてしまふ。それは、今も昔もそんなに変わらないことなのです。

イスラエルの父祖・アブラハム家に起きたひとつの出来事は、神の民として歩む私たち人間が、いつの時代も同じであつたことを思い起こさせます。そして、そのような私たちに働かれた神の姿に、慰めと励ましを与えられるのを実感でき

るでしょう。では、御言葉から人間に働く神の御姿を味わうことといたしましう。

アブラハムの息子であつたイサクと妻リベカの間にも生まれたのは、双子の男子でした。兄はエサウ、弟はヤコブと名づけられたこの兄弟を巡つて、様々な思惑が働きました。誰がアブラハム家の系譜を継承する者となるか。この問題に父親と母親の思いが交錯します。

神の声を聞いていた双子の母リベカは、弟であるヤコブこそが継承者であることを確信していました。しかし、長子こそが嗣子であると確信していた父イサクは、エサウに格別な愛情を注ぎ続けました。おそろく両親それぞれの想いを感じ取つていたエサウとヤコブも、自分こそが跡目を継ぐ意識が与えられていたことでしょう。親の期待を一身に受けた子どもたちが、その願いに応えようと努めるのは、何も間違つたことではないのです。しかし、その期待に応えるあまりに、私たちは方向を誤つて歩んでしまふ

こともあります。ただ、それが「誤つた歩み」であることに、私たちはなかなか気づかないのもまた事実なのです。自分が正しいことを行なつていふということを確認すればするほど、その正しさが正しさと理解されない時、期待とは裏腹の結果となつた時、私たちは不条理な思いにさせられるのです。

神のお告げ通りに事が成されるために、母リベカと双子の弟ヤコブは、継承者としての祝福を受けるために父イサクを巧妙にだまし、その計画は成功しました。しかし、その代わりに払つた代償は、あまりにも大きいものであつたのです。だまされた側である双子の兄エサウは、弟ヤコブに対してうらみ憎しみを抱き、彼を殺そうと躍起になります。

ヤコブはエサウを騙したのですから、エサウがそのような気持ちになるのは当然のことです。ただ、究極的にはこの時、ヤコブにはエサウの気持ちなど全く理解できなかったことでしょう。ヤコブの心に去来するのは、幼き頃から母親を通して聞いていたであろう神の言葉であつて、

自分こそがアブラハム家の系譜を継ぐ者であるという自覚でした。神の御心と信じて歩んできた自分が、どうして人の恨みを買わなければならないのか。わが身に起こる不幸を受容することは、そう簡単にはできなかったでしょう。失意のままに、ヤコブは旅にさすらいしかありませんでした。

ところが、野宿をするようなひもじさの中で、神はヤコブに臨みます。そして、ヤコブにひと言語られたのです。

「見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこに行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。」

(創世記28章15節)

あなたがどこに行っても、ヤコブは茫然自失の中にあつて、大切なことを忘れていました。それは、ヤコブ自身が神を信じているという自意識があつたとしても、神の側からヤコブを見捨てることは決して無いという、揺るぎない神の守りがあることを、ヤコブは苦しみの中

あつて見失つていたので。ヤコブにとって大切なのは、自分自身の幸、不幸に対する関心でした。しかし、神はヤコブに気づきを与えました。目先の出来事を超えて、神は人間とつながっていて下さっていることをです。

ヤコブは神の声を聴いて、心の眼が開かれました。「まことに主がこの場所におられるのに、わたしは知らなかった。(16節)。ヤコブは神の想いを知った時に、初めて自分自身のこだわりから解放されたのです。不条理を嘆くのではなく、その先に万事を整え、神と共に歩む喜びを創造してくださる主ご自身がおられるのです。私たちがどこにさまよつたとしても、神が見えないと叫び、忘却の彼方へ押しやったとしても、主の守りが私たちに働き続けるのです。」

ヤコブに語られた神の言葉を想う時、かつて迫害ゆえに追われたモラビアの信者たちと重なります。神を信じるがゆえに、同じく神を信じていた人々から憎しみを買ひ、逃げなければならなかつた

中であつて、彼らは「主の守り」という名が付けられた村であるヘルンフートに集められて、信仰共同体を形成するに至りました。ヤコブが神の言葉によつて気が与えられたように、彼らもまた、

神の言葉を合言葉(ローズンゲン)として、神と共に生きる喜びを味わいました。たとえ困難があろうとも、「あなたがどこへ行つても、私はあなたを決して見捨てない」という約束の言葉を胸にし続けてきたのです。私たちが現在も、日々の聖句としてローズンゲンの言葉に親しむことができるのも、ヤコブに語られた神の約束が、私たち一人ひとりにも与えられていることを確信できる、強力な根拠となるのです。

私たちは、ヤコブを通して与えられた神の系譜の中で生かされていることを思ひます。聖霊のお働きによつて聖書が神の言葉とされて、イエス・キリストを信じる群れが立てられて、今日に至っています。それは時代が移り、風土が変わつたとしても、決して色あせることのない真理に他ならないのです。

### ディアコニアの原点③

## 人の子の來たれるも

人の子は仕えられるためではなく  
仕えるために來たのである。

——マルコ 10 : 45

はなやかに中世をかざった数々の有能な法王たちは、ときの皇帝をむこうにまわし実力の抗争をしてよく勝った。「キリストは諸王の王である」とは彼等のつよく主張してゆずらなかつた神学である。このごろのように宗教家が世俗の権勢のまえに主張する言葉もなく、たかだた彼らの寵顧をほこりとするかにもえるとき、かかる勇ましい昔話もいささか薬にしたいとおもわないではないが、そこで静かにふみとどまって考えたいことは、いったいキリストは《諸王の王》などであつたかどうかということである。

王というものは、人間のうえにおかれた人間である。それもその人の實力によつて、衆望のひとつく帰するところならまだしも、おおくの場合かれらは世襲

で、人のうえにおかれる實力にかけている。いきおい實力をみすかさされまいとするクライバリ、ないしは威圧を手段としなければならぬ。そこに《王らしさ》という一種の表情がつけまじまつ。ただに王のみにかぎらず、世の中で人のうえにたつ人々のなかには、この威圧を手段として生きている者がすくなくない。上にたつ人ほどナリフリに氣をくばり、笑顔をみせないよう無駄口をきかないよう氣をつけている。そこへゆくと、芸術家や技術家のはだかな氣樂さを美しいとさえおもう。



旅人をやどらせ

米国のうんだ最大の人格エーブラハム・リンカーンは、ある白壁館の廊下で自分の靴をみがいっていると秘書官にみ

とがめられた。大統領が靴をみがいっているのを若しも貴婦人にでもみつけられたら——と云うのである。彼は、おもむるに口をひらいて答えた——大統領が靴をみがいっているのよりも、それを見られて恥ずかしいとおもうほうが、ずっと恥ずかしいことじゃないかと。

いったい、キリストは諸王の王であるうか？キリストは王とよばれるべき範疇のものでありうるだろうか？彼は《王》などではない。《王》とよばれるべきものはおおよそ正反対の《僕》である。この世の王は人々を支配し、大いなりとよばれるものは人々のうえに權力をふるう。しかしキリストの弟子たちのあいだにおいては全然さかさまである。このことは単なる倒置でも逆説でもない。もうひとつの道であり、ちがつた手段なのである。われわれが大いなりとするものは《役者 diakonos—奉仕者》であり《僕—dominos—奴隸》でなければならぬ。キリストがきたのは《仕えられる》ためではなくむしろ《仕える》ため、得るためではなく実と与えるためだったのである。

この、支配し命令し主張し仕えしめる方法によらない他の道、これを忘れてしまったところに教会の悲劇がある。何人もそこにゆくことを好まない、まことの祝福の道が、キリストによって指しめされ、開かれたのに、そこは何時しか世俗的な圧力によって塞がれ、癒着してしまつて、いまは教会も世俗とともに危賄にひんしている。

剣をとつて立つものは剣によつてほろぼされる。カイザルのものはカイザルにかえし、神のものを神にささげねばならぬ。キリスト対カイザルのたたかいは、カイザルの手段によつてたたかわれてはならない。キリストは、もうひとりのカイザルとなるために来たのではない。彼こそは、万民のエゴイズムのしりぬぐいのために、十字架の道をえらんだのである。

旧約聖書イザヤ書53章以来、れんめんとつづく〈苦しめる主の僕〉の思想が、危機を目前にしたエルサレムの二階屋敷の卓上でいとも象徴的にくりかえされたとき、

「食事の席につくものと仕うるものとは何

れが大いなる。食事の席につくものならずや。されど我は汝らのうちにて仕うる者のごとし」  
(ルカ22:27)

と語つた人の面貌と意念とを忘れてはならない。

十字架につきたまいしまなるキリスト——キリストス・エスタウローメノス——磔刑にされた受膏者——所刑(原文のまま)された王。王ならば所刑されまいものを、所刑されたならば王であり得ま

いものを……。大パウロさえも、かつてたじろがざるをえなかった、この大矛盾はじつは、矛盾でも何でもなかった。大いなるものは奉仕するという新しい愛の法則のもとでは、王なるがゆえに所刑されたのである。

みよ！ 平和の君はろばにまたがつてやつてくる。  
(深津 文雄)

「デアコニ」4号

受難節に歌うコラール ドイツ聖歌集 41番

O Mensch bewein dein Sünde gross

深津文雄訳

Sebald Heyden 1525, Mattheus Greitter 1525



1. ひとよながつみの おおいなるをなげき くいてなみだせよ
2. さればかんしゃもて みぎずあおぎつつ みむねにしたがわぬ



このゆえキリスト ちちのもとをさり このよにぎましめ  
つみをあだとなし みことばにたちて よるひるたたかわん



しにたるをいかし やまいをとりさり ついとときいたり  
ふかきなげきもて しのたてたまひし あいをよにしめし



ひとのつみのため じゅうじかのあがない おえさせたまひぬ  
ひとよこころして みかみのいかりを おそれつつあやまん

# 『ローズンゲン』と私：

鈴木 和 男

日本キリスト教団 引退牧師

荒々しいブロックの面もむき出しのまま、素人が積み上げたと思われるコンク

リートのアとも残る壁にかこまれた小さな部屋——それが当時の深津先生の茂呂での書斎・仕事場であったのでしようか。先生は訪ねていった私の話をきいてくださったあと、片スミに積みあげられていた小冊子を指し、「必要なだけ持つていくがいい」といわれた日のことを、昨日のことにように思い出します。その時が先生による日本語版『日々の聖句』との最初の出会いでした。

以来六十年近くに及び私の牧師としての日々には欠くことの出来ない同伴者であつてくれ、どんなにこの小冊子に助けられ養われてきたことか。まだ駆け出しの二十代の若造牧師は、責任を負わされた教会の一人一人の聖書の学びの手引きとなるものを探しあぐねており「これ

だ」と思いました。一人一人買ってもらうことも困難ななか、せめて聖書の箇所だけでもと、ガリ版でつくっていた「教会予定表」の中に刷り込み、ガリ版からワープロにさらにパソコンの時代と変わるなかで長く教会の方々の手許に届けてきました。

一九五七年以降、欠けることなく発行されてきた日本語版『日々の聖句』は、すでに二百数十年前に刊行され始めた「ヘルンフート兄弟団」の『ローズンゲン』（日々の聖句）を基としたものであることは衆知のところですが、やがてそのドイツ語原本を手にしてもらい、そこには日々の聖句とともに『ドイツプロテスタント教会讃美歌集』や『ボヘミヤ兄弟団讃美歌集』からの一節や、さらに古今東西の教会によって祈られてきた美しい祈りや告白文なども紹介されているのを知りました。スペースの関係で日本語版では紹介されることなく、深津先生もそれを残念としてこられたと承知しております。

それらを是非紹介したいものだと非力

をかえりみず勝手に「私訳」をつくり、ほしいという方々に届けてきました。毎週七日分を一枚の用紙にまとめ、一年で五十二枚、以来その私訳は三十年以上継続、その祈りの数は一万を超えることになりました。二〇〇二年牧師引退後この「私訳稿」を棄てるに忍びず、この中から三六六篇を精選して「ローズンゲンによる日々の祈りの本」（私訳版）をつくることを考えました。

さいわい「ベテスタ奉仕女母の家」理事会はこの企てに諒解をくださり、出版社（燦葉出版社）も現れ、二〇一四年に一年かけて『あなたもお読みでしたか：日々の聖句（ローズンゲン）による三六六日の聖務日課■神学歳時記』（全四冊）として刊行することができました。

今迄のさまざまな年の『ローズンゲン』からの「日々の聖句」「祈り」に加えて自身の「黙想」（小説教）を書き加え、その日々にならむ教会史上のエピソードなども短く紹介する「神学歳時記」も入れてそれを見ひらき一頁に全部収めるよう工夫しました。日本の教会も急速に高令

化し教会の礼拝・集会に参加することが困難になっていく人々のことも考え、「ひとり」でいても礼拝が出来る手助けになるよう日本語の讃美歌も一曲歌えるよう指示し一年で『詩編』全体も通読しうるよう案内もしました。拙著は、深津先生ご夫妻に献呈、一昨年大沼昭彦理事長の手で「ヘルンフト兄弟団」にも届けられました。拙著にはお手本がありました。一九一五年というヨーロッパの戦乱の日々、ドイツ・バート・ボルの救護施設で指導に当たっていた有名なクリストフ・ブルームハルト（一八四二—一九一九）は毎朝施設で働く同僚たちとまず『ローズンゲン』を朗読し、小説教を語り、祈り、讃美歌を歌ったものが隣室で全て筆記され、それがのちに『一年のすべての日のための家の黙想集』として刊行され、それは久しきにわたり愛読されるものとなり、私自身にとっても座右の書となりました。

「かいた」でなされた深津文雄先生の遺著となった『かいた講壇 底点志向者 ジェシユアガ』もその願い志において通底するものでしょう。この遺著には前がきがあり、「献辞 浜田多賀子先生に」の次に「フミチャンナラ ニホンイチ（の牧師さん）ニナレルワヨ と励ましてくださった唯一人のひとり ネエさんにこの本を贈ります」とあります。「ネエさん」とは文雄少年の大連教会時代の日曜学校教師浜田多賀子であり、のち建築家・山本拙郎（東京 富士見町教会旧会堂設計者）の妻となり夫が上海で客死したのち三人の子を育て、その娘は牧師・鈴木和男の妻となりました。文雄牧師と「ネエさん」とは七十九歳と八十七歳で再会を果たし、その席にはお元氣な春子先生のお姿もありました。義母・多賀子は百七歳で死ぬまで『日々の聖句』の愛用者でありつづけました。

「ローズンゲンは神学ノーベル賞に価値があるもの、その受賞者はツインツェンドルフ」と評したのはドイツ・ルター派教会監督マリア・イエブセン。P・ツイメルリンクの近著『ローズンゲン——輝かしい歴史』（二〇一四年）で知りました。「ベルリンの壁」が東西ドイツを分断していた時にも、数十万部の『ローズンゲン』が東ドイツの人々に届けられ、それが「壁」を打ち破る原動力となったと言つても過言ではないでしょう。いつか日本語版『日々の聖句』も原本どおりの讃美歌や祈りも加えられた版となりエキメルカルな連帯の絆がさらに深まることを祈るものです。

信仰は個人の世界に閉ざされたものではなく、とかくそうなるうとする自閉の壁を打ち破って、「交わり」の中に生きる信仰こそまことの信仰のあり方と考えたヘルンフト兄弟団の創始者であり『ローズンゲン』の産みの親、ニコラウス・フォン・ツインツェンドルフの祈りが、その時はいよいよ実現していくことになるでしょう。

施設だより

## 「もろじゅくごはん」が

できるまで

茂呂塾保育園は昨年(2019年)の11月に80周年を迎えました。大きな節目の年に、記念として作成する事になったのはレシピ本「もろじゅくごはん」です。茂呂塾で永く大切にされている食についてまとめた一冊を作る事になりました。

「もろじゅくごはん」を作成するきっかけを作ってくださったのは、卒園生の保護者の方のお話でした。その方は、食の細かった我が子が毎日楽しみにしていた保育園の食事を、卒園しても食べさせたいと「お手伝いをするから、レシピ本をぜひ作って欲しい」とおっしゃったのです。現在の茂呂塾の食事の礎を築いた前園長の大宮洋子先生も、「いつかこのレシピを本にして残したい」と常々おっしゃっていたこともあり、この節目の記念としてレシピ本を作成しようという運

びになりました。

レシピ本を作成する事が決まったものの、何から始めたら良いか、どういったスケジュールで進めていくのか、全く見当もつかないまま手探りでスタートしました。とにかく、作成に一年は掛かるだろうと、前年の11月には作成委員会をス



タート  
させま  
した。  
まずは、  
一緒に  
作成を  
してく  
ださる  
保護者  
の方を

募集。すると、すぐに10名程の方々が手を挙げてくださいました。その中には、

出版社にお勤めの方、ライターの方、管理栄養士でレシピ本作成の経験の有る方など多彩な方々がいらして、とても心強い思いでした。中でもポプラ社にお勤めの壬生さんは、すぐに「ポプラ社で出版

したい」と社にかけあってください、大きなご縁でポプラ社での出版が決まりました。

スケジュールを立ててみると、まだまだ時間があるように思いましたが、調理室の忙しくなる新年度を迎える前に、料理の写真撮影と4人分にしたレシピの作成を進める事にしました。

調理室では毎日のように100人分の調理をしながら、少し取り分けて4人分の料理を作ります。味付けも単に百分の四にしても同じ味にはならず、調味料や材料を丁寧に計りながら、何度も作った物もありました。そして、皆でその日の食事と食べ比べながら、手探りで味を決めていきました。

また写真撮影では、卒園生の保護者の方でカメラの仕事をされている西村さんに撮り方を教えていただく事になりました。機材一式を貸していただき、空いている部屋に照明や紗幕をセッティングし、後はシャッターさえ押せばよい状態にまでしてくださいました。

一番難しかったのは、食器選びや周囲

に使用するマット等のコーディネート、そして盛り付けでした。色々なレシピ本や雑誌を見て真似をして見ましたが、「これがいい！」と思えるようなショットには辿り着かず、試行錯誤の毎日でした。

## 写

真撮  
影用  
の料  
理は、  
本来



の作り方はせず、普段よりも強めにとろみをつけたり、野菜は色が綺麗に出るよう固めに茹でたりしなければなりません。そのため、土曜日に写真撮影日を設け、保護者の方にも手伝っていただくことにしました。すると、レシピ本作成経験のある山本さんが「色画用紙を使うといいですよ」「こんな盛り付けも出来ますよ」等とアドバイスして下さり、「なるほど!」とそこから色々なアイデアが出て、どんどん撮影が進みました。写真やレシピがそろってきた6月に最初の原稿を入稿しました。ホッとしました

の、この時点でもまだ全体像は見えていませんでした。数週間経って、綺麗なカラーのページが上がってくると「うわ〜! お店にある本みたい!」とびっくりする出来上がり。

しかし、ここからも校正の作業がまた初めての事ばかり……。基本的なルールも分からず、進めていくうちに、「たれを混ぜる時の工程は、こういう表現に統一した方がいいかな」「こつちにはこう書いてあるけど、こつちは違う表現になってるから、どちらに揃えようか?」等々、考えなくてはならない事から次から次に出てきました。再度、保護者の方々のお力を借りようと皆さんに校正をお願いすると、それぞれの得意分野を活かして、栄養士の方は「材料と工程が一致しているか」等を、雑誌等を作るお仕事をされている方は「文字や文章が一般的なルールに沿っているか」等を、そしてその他の方は「読者の目で見えやすいか」等を見ていただきました。それぞれの着眼点の違いで全てが網羅される形になりました。

本場に保護者の方々の働きに支えられ、「もろじゅくごはん」という形となったと思います。

10月の最後の金曜日、とうとう「もろじゅくごはん」が完成し、納品されました。この素晴らしい仕上りの「もろじゅくごはん」は1999年度までの卒園生やこれまで茂呂塾で働いてくださった職員の方々、そしてたくさんの方々の茂呂塾を支えてくださった関係者の方々にお配りしました。

この茂呂の地で80年という長い時間を掛けて培われた「もろじゅくごはん」を、このような形で保護者の方々と共に創り上げ、茂呂塾に連なる方々の元にお届けできた事を、大変嬉しく思います。たくさんの方に、この「もろじゅくごはん」が永く愛されればと願っています。

(櫻井 郁)

「もろじゅくごはん」をご希望の方は  
本代1,000円+送料164円でお  
送りいたします。 茂呂塾保育園

TEL 03-3956-2525

# 法人の歴史

## かにた婦人の村編②

コレカラ ドウナルカ ワカラナイガ、  
トニカク エライコトニ ナツテシマツ  
タ モノデアル。シカシ、イマサラ シ  
リゴミスル ワケニハ イカナイ。コレ  
ワ ワタシタチノ イノリデ アツタ  
ハズデアル。カミサマ・ソシテ セケ  
ンノ ヒトモ・ワタシタチノ ウツタ  
エニイマ ミミラ カシテ クダサルト  
キガキタ。ワタシタチワ オクセズ  
サイセンタンニ タツテ ヨヲ ヒキイ  
テ ススマネバ ナラス。チエト チカ  
ラトワ、テンチノ ツクリヌシデアル  
アワレミノ シユ カラ クル!

深津文雄は「イノリノセキニン」と題して、総合コロナーが生まれようとする、まだ暗闇のその先の光さえ見えぬ胎動が始まったばかりの時、1959年のディアコニア32号に書いている。

コロナー予算が国会を通過するのは容易なことではなかった。昭和35年、36年と大蔵省は認めず、昭和37年度予算においても、厚生省が民間の法人を補助するという大英断をし、いずみ寮長であった深津を厚生省に呼び、コロナー担当の覚悟をただしたにもかかわらず、一次査定で落とされた。

61年12月18日、全国社会福祉予算獲得緊急大会に寮生、職員もハチマキとブラカードを持って参加。久保講堂の中央全面を「いずみ寮」というハチマキが埋め尽くした。大会後、街頭行進と国会請願に出かけ、衆参両院の請願受付口に束なす請願書を差し出して、「コロナーを落とさないでください」と叫ぶ寮生と奉仕女の姿は見る人の心を動かし。にもかかわらず、第二次査定にも予算ゼロ。「聖旨ならば通る。とおらねば神はまた私たちの準備が足りないとお考えなのであろう」(深津)。

「第三次査定に1、130万円の予算が組み入れられた」と厚生省から電話を受けたのは12月27日の朝。「要求額の半

分にも足らぬものとはいえ、言が肉になつたと思うと涙が頬をつたいました」と、深津はその時のことを書いています。しかし、わずかそれだけのお金で、誰が、どうしてコロナーを作り得ようか。理想という大きな歯車と、現実という小さな歯車とをうまくかみあわせて動き始めるものにしていかねばならない。

「どんな弱者でも生きられる世界を生み出すためには、おおきな夢がおり、筋のとおった哲学が在らねばならなかったのです。この限らない夢と深い哲学を、どうして1千万円の器にもりこむか。まったく曲芸にもひとしい離れ業といわなければなりません。へたをすればせっかく取れた予算は、そのまま手つかずで年度を越してしまふことになりかねない」と危惧するほどであった。

厚生省は翌年1月12日という早い時期に関係者を召集し、この予算でどうコロナーを生み出すか、新しい組織を作り、全国的な募金をし、国有地を払い下げて家を建てるところまで、官民力を合わせ当たらねばならぬと挨拶をした。しかし

60日過ぎても担当者さえ正式に決まらなかった。たまりかねた久布白オチミは売春対策国民協議会長の肩書をもって、コロニー建設の進捗状況をお聞かせ願えないかと、厚生大臣あてに要望書を書く。

それに対して、①予算は、木造450坪、民間補助費二分の一。②その団体はまだ判明していない。③土地は国有地3万坪を千葉県に確保してある。との回答だった。そこには〈婦人の村〉という名称を掲げて、建設費の不足分を集めるための趣意書も、売春対策推進委員会の名で作られていること。適当な社会福祉法人に委託される、定員300名、3万坪、1億円の構想が書かれていた。

ここまで来て、担当するものが決められないことに業を煮やした深津は6月22日、断るつもりで厚生省にふみ込んだ。課長は深津に何も言わず、「ぜひお宅の法人でやってください。やはりシユベスターでなくてはできません」と明瞭な線をだして言った。「生涯をささげ、きつと立派なものにしてみせる覚悟があります。」と答えたという。

7月3日、千葉県館山市の国有地、双子山砲台跡3万坪を視察。同行の建築家石原憲治氏に、「これじゃあ、建物をのせるところがない」と言わしめたトリガラのような急斜地だ。コロニー100万坪の夢が10万坪になり、3万坪に。そして、「立木は地元民に、土地は3千坪まで」という反対運動まで起きた。やつと国有地「9,003.3坪」の払い下げが決まり、売買契約を終えることができたのは、63年12月27日である。

久布白オチミ氏によってコロニーの種がまかれてから7年、山や林が切り開かれ、第一工事が本格的に始まったが、総予算1億円のうち、三分の一の3千万円が、まだ集まっていなかった。

このころより本格的に募金活動が開始される。病に伏す深津に代わり、奉仕女たちは、雨の日も風の日も毎日、何の後ろ盾もなく素手で、大会社、大手銀行、商店や個人にお願いして歩く。ベテスタの総力は、お金集めのために注がれた。また、資金獲得の一助として、朝日新聞

厚生文化事業団といずみ会の後援で「コロニー建設資金募集慈善映画試写会」を、神田共立講堂で開催。2,800人余りの人が集まり、大きな力となる。

一方、コロニー建設のために、国際的な勤労奉仕が展開された。最初の年は、暑い夏の盛りに、エキユメニカルワークキャンパー（アメリカ、カナダ、スエーデン、コレア、タイワン、フィリピン、タイ、マレーシア、ジャバンの若者たち36人25日間、延べ646人）、早稲田奉仕園兄弟会（56人5日間、延べ336人）日本青年キブツセミナー（18名）など、山を切り崩した後の整地や道路などの土木工事に携わり汗を流した。2年間で延べ3,229人の若者が、コロニー建設に携わった。これらは館山市を巻き込み、市民の協力も得て展開された。

1965年4月1日、ついに「かにた婦人の村」が誕生した。しかし、想像を絶する、怒涛の嵐の一年の始まりであった。（天良さゝ子）

\*参考文献「ディアコニ」

「いと小さく貧しき者に」他

セツルメント「保恵学園」は調布市の端にあります。ベテスタに入る前、私は5年も働きと生活を共にした懐かしい思い出があります。それは奉仕女をめざす原点となりました。

園長の名取道子先生が召天されました。幼児教育一筋の御生涯でありました。天国できつと「保恵学園」を見守りつづけてくださるでしょう。

私は現在、働きの場を退いて母の家で不自由なく暮らしております。感謝。 小川 都代

\*

常に注意して居たのに表通りで転び、ショックでした。すぐにかけて寄って起こして下さった

のは、小さい子供さんを連れられた若い婦人。でも私は膝が弱く、杖を支えにしても立ち上れずに居りましたら年配の大きな男性が立たせて下さり「お家に帰れますか」と聞いて下さいました。恥ずかしいのと痛いので、お二人のお名前も聞かずに立ち去ったことは、大変申しわけなく、今も心残りです。 眞山知恵子

毎月一回の書道の日が楽しみで、毎日

愚かしき己に問ふや春の塵

早朝に起きて習字に励んできたのですが、なぜかこの頃字が下手になり、字配りもおかしくなってきました。手紙を書こうとしても行が斜めになったり、前に書いた行の上に重ねて書いてしまったりします。メガネは新しくしたのですが、歳のせいでしょうか。 山下 操

ともすれば虚しき思い春の塵  
便利さは不都合もあり春の塵

植木 道子

\*

一体、日本の国はどうなっていくの？ 安保、

原発、災害、教育など。

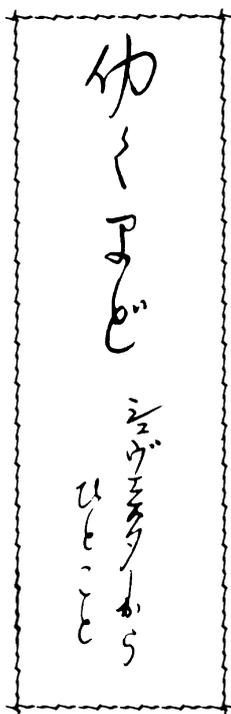
これらは、すべて、いのちの問題。もっと真剣に向き合つてと、為政者に叫びたい思い、やまやまです。 天羽 道子

\*

「予定は未定にして決定にあらず」  
年を重ねることに予定通りに行かなくなり、心身のバランスも思うようにならなくなりました。

又、人間同志は他者を理解することが難しく、それ故に神様に切に祈り求めて日々の歩みを誤らないように、心から願っています。 細井 陽子

グループホームの生活で一番難しいのは、本が読めることです。いま読んでいるのは、星野富弘さんの「いのちより大切なもの」です。読んでいてジーンとくるものがある、やはり本からうけとるものは読むことによると、読める時間を有難く思っています。 桜庭 歌子



# 賛助金・クリスマス献金 ありがとうございました

望月栄一 安東優 鈴木和賀子 入笠  
山讚美の家 美保キリスト教会 井上京  
子 新藤泉 加藤美都子 後藤信子 大  
槻圭史 藤巻恵子 石床愛次 山上洋子  
吹春当恵子 平林勝子 吉田実生 浅野  
康子 長瀬美里 岸川洋二・陽子 伊藤  
隆史 関本郁子 中川彦春 佐野孝枝  
西村多見子 ベテスタ姉妹会 黒川裕子  
青山学院初等部 江村政子 余郷志津子  
佐藤元紀 秋津教會 酒井忍 本間士郎  
石神井教会婦人会 森史子 村田多美子  
今井直子 目白町教会 深田光代 広瀬  
公男 柴山操 五十嵐敏子 自由学園女  
子部卒業生会 有賀道子 岡崎節子 東  
洋英和女学院小学部母の会 小竹向原キ  
リスト教会 平野恵子 坂口順治・節子  
菅宮建吉 門司教会婦人会 大和キリス  
ト教会支援委員会 上富坂教会 飯山泰  
子 東洋英和女学院中高部母の会 新津  
田沼教会 埼玉新生教会女性の会 大沼

昭彦 藤巻ひとみ 国際基督教団代々木  
教会 普連土学園宗教委員会 但野明子  
富山沙波子 宮田光雄 大竹雪子 目黒  
サレジオ幼稚園 宮崎康久 信州教会  
近藤浩子 田村和子 ラ・サール学園  
伊藤瑞男 池田直子 松谷広美 大洲幼  
稚園 早田奏恵 日本聾話学校 峡南幼  
稚園 フェリス女学院中高ホワイトボツ  
クス 鹿島信義 田中彩子 マリア福音  
姉妹会 神代英理 牛込弘方教会・レ  
プタ献金 川口博司 ベテスタ奉仕女母  
の家出版部 西千葉教会 彰栄学園宗教  
委員会 佐倉教会 田浦教会エレミヤ会  
横浜共立学園 松沢教会 東村山教会  
ひばりが丘教会 北島あづさ 東北学院  
大宮洋子 京都丸太町教会 新居浜西部  
教会 阿佐ヶ谷教会 金城学院大学キリ  
スト教センター 鎌倉雪ノ下教会 静岡  
教会 柿ノ木坂教会 水戸中央教会 鎌  
倉教会 関西学院宗教活動委員会 翠ヶ  
丘教会 白鷺教会 聖園女学院生徒会  
稚内ひかり幼稚園 大泉教会 松戸教会  
深津恵太 甲府教会 吉田やす子 石塚  
八重 西園栄 飯久保芳子 岩崎祐子

佐藤千郎 平山嘉繁 玉城吉重 千代田  
教会 大橋祐治 渡邊誠子 靈南坂教会  
村田充子 捜真女学校高等学部・中学部  
田園調布教会

〈姉妹会へ〉渡辺恵子 須藤美千代 八

田満千子 長岡加代子 宮公子 田中富  
美江 黒澤すぎの 倉岡珠江 原田純子  
兼宗房子 朝倉福子 定家明子 鹿島信  
義 伏木喬子 熊田てる子 中西信 筒  
井克子 伊牟田克子 小泉元生 浅田節  
子 丸山紀久子 小宮山あい子 徳武美  
和子 斉藤恵美子 山本洋子 鶴田淑子  
長井英子 長田さやか 小林美恵子

(敬称略)

皆様の暖かいお支えを、心より感謝  
申し上げます。2月末現在、目標額を  
上回り115口3、159、129円と  
なりました。ありがとうございました。



## おしらせ

★ 訃報 山本厚子姉（天羽道子の祈りの友）が、15年11月7日に召天されました。長い間の支えとお交わりを心から感謝し、ご家族の方々の上に天父の深い慰めと平安をお祈りいたします。

### ★ ローズンゲン

250年記念の

切手

1731年発行の最初の冊子の扉がデザインに使われています。

1980年発行の

ドイツの切手

（鈴木和男先生に贈呈）



### ★ 評議員会・理事会の議事内容

・第200回理事会11月18日於法人本部  
次の議案が審議・承認議決された。

① いずみ寮・都環境整備助成金による外構工事の件

② 特別縁故者から相続財産分与された基

本財産をいずみ寮へ移管の件

・第5回評議員会2月13日 於いずみ寮

27年度補正予算案を理事会にかけることを承認議決。

・第201回理事会2月13日 於いずみ寮

評議員会で理事会付託を承認された27年度補正予算案を承認議決。

・第6回評議員会及び第202回理事会

3月12日 於いずみ寮

28年度事業計画と予算案の審議

### ★ ホームページを開設

<http://www.bethesd-dmh.org>

法人概要・各施設概要・情報公開等、

是非ご覧ください。

大泉ベテル教会

や、ドイツのベテ

スタの様子もご覧

いただけます。

ディアコニア誌も

公開。

「かにた告知板」

も設けてあります。

### ★ 献金のお願い

皆様には日々のお祈りの中でお覚えく  
ださり、あわせて経済的ご支援を頂戴い  
たしまして、衷心より感謝申し上げます。

これからもよろしく願っています。

振替口座〇〇一九二二一三八一六四

口座名 ベテスタ奉仕女母の家

### ★ 編集後記

15年度も年度末を迎えました。あらた  
めて皆様のご支援に感謝いたします。お  
かげさまで事業計画も粛々と遂行されて  
おります。

良い受難節を過ごされ、喜ばしい復活  
祭をお迎えください。（佐藤 元紀）

二〇一六年三月一五日発行

発行人 大沼 昭彦

編集責任者 佐藤 元紀

印刷所 (株)印刷センター

発行所 〒一七八一〇〇六一

東京都練馬区大泉学園町

七一七一三〇

社会福祉法人ベテスタ奉仕女母の家